

### 地元生徒が車内放送で御岳山の魅力を案内します

京王グループの御岳登山鉄道株式会社(社長:立石努)では、御岳山に住む小学生が通学している青梅市立第六小学校の総合学習「三田プロジェクト」(※)の一環として、4月16日(土)からこの3月に同校を卒業した生徒たちが吹き込んだ車内放送で御岳山の魅力を案内します。

またケーブルカー滝本駅構内に、「三田プロジェクト」の学習内容を紹介するポスターを掲示しました。ポスターにはQRコードが付いておりコードを読み取ると、学習内容を動画で見ることができます。

新緑まぶしい季節を迎えた中、地元生徒が紹介する御岳山の魅力を参考にしながら、ハイキングなどをお楽しみください。

(※)「三田プロジェクト」とは(青梅市立第六小学校ホームページより一部抜粋)

青梅市内の各校は青梅市教育委員会の方針の下、「青梅学」と称して子供たちにとっての故郷である青梅について、「総合的な学習の時間」等で学習しています。

青梅市立第六小学校6年生は「三田プロジェクト」と名付けて「青梅学」を学習しています。



滝本駅構内にポスターを掲示

以上

このニュースについてのお問い合わせは、御岳登山鉄道株式会社

【☎ 0428-78-8123 山本・榎戸】までお願い致します。

このニュースは下記のところに配布しています。

- 市政記者クラブ (立川)
- 新聞社支局 (立川・八王子・青梅・福生)

別紙：参考

●青梅学三田プロジェクトとは（青梅市立第六小学校ホームページより抜粋）

青梅市内の各校は青梅市教育委員会の方針の下、「青梅学」と称して子供たちにとっての故郷である青梅について、「総合的な学習の時間」等で学習しています。

本校6年生は「三田プロジェクト」と名付けて「青梅学」を学習しています。

子供たちの学習への気付きは「六小の子供の数や地域の人口が減っている課題を解決しなければ、六小がいつかはなくなってしまうのかもしれない」というものでした。その課題を解決するためには、地域の魅力を再発見して、そのことを発信して定住者を増やしていく必要があるのではと考えました。

そこで、子供たちは自分たちの暮らす「三田地区」について、その魅力を発信していきたいと考えました。子供たちは「歴史」「観光」「自然」「食べ物」の4つのグループに分かれて、三田地区の魅力について調査を始めました。この学習を進めることで、この地区の地名の由来となっている「三田氏」の歴史、御岳山の自然や伝統の奥深さなど、その土地に暮らしながら知らなかったことを数多く学ぶことができました。そして、いかにして伝統を受け継いでいくのか、自然を保全していくのか、地産地消の大切さについて学ぶことができました。これらのことは、持続可能な社会を目指すことにもなり、いわゆるSDGsの考え方にもつながることにも気付くことができました。

4つのグループの活動の成果を動画にまとめました。ぜひご覧ください。

●御岳山山上に住む小学生について

御岳山には武蔵御嶽神社の神主が営む宿坊やお土産・お食事処を営む売店があり、約30世帯130名が標高約800メートルの山上で暮らしています。小学生は2022年4月1日現在6名住んでいます。かつては御岳山に分校があり、御岳山の小学生は分校に通学していましたが、昭和61年廃校となってからは山上から7時30分始発ケーブルカー、路線バス、電車と3つの交通機関を乗り継ぎ、麓の青梅市立第六小学校に通学しています。

●分校跡の御岳山ふれあいセンターについて

分校廃校時に住民優先の施設として設置されました、スポーツホールを備えて居る為、宿坊を利用して武道の合宿やその他活用されて居ます。

また、昨年からは緊急時避難所として今後活用される予定です。

（お話：自治会長 片柳左京さん）



朝の通学風景



御岳山ふれあいセンター

※御岳山ふれあいセンター2枚の画像は御岳ビジターセンター提供



御岳山ふれあいセンター横に建つ碑